

## 第3章 学校施設の現状



## 第3章 学校施設の現状

## 3-1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

## (1) 対象施設一覧（令和元（2019）年5月1日時点）

## ■小・中学校

名称	住所	延床面積 (㎡)	建築 年度	児童・生徒数(人)			学級数(学級)		
				通常 学級	特別 支援	計	通常 学級	特別 支援	計
1 久代小学校	久代3丁目27-9	7,130.00	1968(S43)	477	31	508	16	4	20
2 加茂小学校	加茂3丁目14-1	7,769.00	1975(S50)	450	35	485	15	6	21
3 川西小学校	栄根1丁目1-1	7,331.00	1971(S46)	570	25	595	19	5	24
4 桜が丘小学校	日高町4-1	6,518.00	1971(S46)	294	13	307	12	4	16
5 川西北小学校	丸の内町7-1	7,182.00	1971(S46)	391	35	426	12	6	18
6 明峰小学校	萩原台西3丁目242	7,947.00	1975(S50)	837	26	863	25	5	30
7 多田小学校	多田院1丁目4-1	7,043.00	1973(S48)	485	16	501	17	3	20
8 多田東小学校	東多田3丁目21-1	6,724.00	1982(S57)	640	27	667	19	5	24
9 緑台小学校	向陽台1丁目7-1	7,669.00	1970(S45)	298	6	304	12	3	15
10 陽明小学校	向陽台3丁目6-219	6,861.00	1974(S49)	297	10	307	11	2	13
11 清和台小学校	清和台東2丁目2-2	5,616.00	1970(S45)	282	12	294	12	3	15
12 清和台南小学校	清和台西5丁目1-2	6,043.00	1976(S51)	320	13	333	13	2	15
13 けやき坂小学校	けやき坂3丁目1-2	5,440.00	1988(S63)	624	14	638	20	4	24
14 東谷小学校	見野2丁目30-1	7,117.00	1971(S46)	637	29	666	19	5	24
15 牧の台小学校	大和東1丁目47-1	8,036.00	1972(S47)	489	25	514	16	4	20
16 北陵小学校	丸山台1丁目3-2	5,783.00	1986(S61)	490	22	512	18	5	23
17 (旧)加茂小学校 体育館	加茂3丁目13	901.93	1969(S44)	—	—	—	—	—	—
小学校計		111,110.93	—	7,581	339	7,920	256	66	322
1 川西南中学校	久代3丁目3-1	8,625.00	1960(S35)	487	13	500	14	3	17
2 川西中学校	松が丘町1-1	9,228.00	1964(S39)	533	22	555	15	4	19
3 明峰中学校	湯山台1丁目39-1	6,283.00	1976(S51)	453	6	459	13	3	16
4 多田中学校	新田2丁目29-1	7,977.00	1970(S45)	594	10	604	16	2	18
5 緑台中学校	向陽台3丁目11-35	6,600.00	1978(S53)	317	9	326	9	2	11
6 清和台中学校	清和台西2丁目3-57	7,531.00	1974(S49)	536	15	551	15	4	19
7 東谷中学校	見野1丁目9-1	8,197.00	1970(S45)	840	23	863	22	4	26
中学校計		54,441.00	—	3,760	98	3,858	104	22	126
合計		165,551.93	—	11,341	437	11,778	360	88	448

■特別支援学校

名称		住所	延床面積 (㎡)	建築 年度	児童生徒数 (人)	学級数 (学級)
川西養護学校	小学部	清和台西2丁目3-81	2,922.00	1977 (S52)	9	3
	中学部				9	3
	高等部				6	3
合計			2,922.00	—	24	9

■幼稚園

名称	住所	延床面積 (㎡)	建築 年度	園児数(人)			学級数(学級)		
				4歳児	5歳児	計	4歳児	5歳児	計
1 久代幼稚園	久代2-12-1	682.00	1969(S44)	23	39	62	1	2	3
2 川西幼稚園	小花1-16-13	944.00	1967(S42)	6	19	25	1	1	2
3 川西北幼稚園	丸の内町7-1	644.00	1972(S47)	30	26	56	1	1	2
4 多田幼稚園	多田院1-4-3	705.00	1974(S49)	12	21	33	1	1	2
5 清和台幼稚園	清和台東2-3-4	675.00	1970(S45)	13	15	28	1	1	2
6 東谷幼稚園	見野2-29-24	729.00	1976(S51)	10	36	46	1	2	3
7 (旧)ふたば幼稚園	加茂1-18-30	620.00	1975(S50)	—			—		
8 (旧)加茂幼稚園	加茂1-4-5	655.00	1970(S45)	—			—		
9 (旧)松風幼稚園	水明台1-1-20	640.00	1974(S49)	—			—		
合計		6,294.00	—	94	156	250	6	8	14

※No.2 川西幼稚園については、令和元（2019）年度末をもって閉園予定となっています。

■認定こども園

名称	住所	延床面積 (㎡)	建築 年度	園児数(人)				学級数(学級)			
				~3歳児	4歳児	5歳児	計	~3歳児	4歳児	5歳児	計
1 牧の台みどりこども園	大和東1-47-5	1,635.22	2017(H29)	67	42	40	149	5	2	2	9
2 加茂こども園	加茂3-13-22	2,222.23	2018(H30)	90	64	62	216	6	3	3	12
合計		3,857.45	—	157	106	102	365	11	5	5	21

※令和2（2020）年度より川西こども園が開園予定となっています。

## ■留守家庭児童育成クラブ

学校名	クラブ名	延床面積 (㎡)	建築 年度	児童数 (人)	定員	待機 児童数 (人)
1 久代小学校	オレンジクラブ	—	—	41	40	0
2 久代小学校	アップルクラブ	—	—	42	40	
3 加茂小学校	さくらんぼクラブ	—	—	60	40	9
4 川西小学校	つくしんぼクラブ	—	—	48	40	10
5 川西小学校	つばめクラブ	—	—	47	40	
6 川西小学校	めだかクラブ	—	—	47	40	
7 桜が丘小学校	あじさいクラブ	—	—	39	40	0
8 桜が丘小学校	すずらんクラブ	—	—	42	40	
9 川西北小学校	たつのこクラブ	—	—	38	34	3
10 川西北小学校	らっこクラブ	—	—	47	40	
11 明峰小学校	そよかぜクラブ	240.00	2008 (H20)	50	40	10
12 明峰小学校	はるかぜクラブ			52	40	
13 多田小学校	とんぼクラブ	—	—	43	40	0
14 多田東小学校	こすもすクラブ	156.61	2000 (H12)	42	35	3
15 多田東小学校	なでしこクラブ			40	34	
16 緑台小学校	たんぼぼクラブ	—	—	37	40	0
17 陽明小学校	ゆうやけクラブ	—	—	36	40	0
18 清和台小学校	ひまわりクラブ	—	—	39	40	0
19 清和台南小学校	こんぺいとうクラブ	—	—	31	40	0
20 清和台南小学校	かりんとうクラブ	—	—	33	40	
21 川西養護学校	こんぺいとうクラブ分室	—	—	0	3	1
22 けやき坂小学校	ぽてとクラブ	160.65	2014 (H26)	43	35	21
23 けやき坂小学校	オリーブクラブ			42	35	
24 東谷小学校	やまびこクラブ	153.00	2006 (H18)	36	33	0
25 東谷小学校	どんぐりクラブ			30	38	
26 牧の台小学校	あめんぼクラブ	—	—	35	40	0
27 牧の台小学校	なのはなクラブ	—	—	58	40	
28 北陵小学校	イルカクラブ	126.10	2006 (H18)	31	27	22
29 北陵小学校	ペンギンクラブ			31	27	
合計	—	836.36	—	1,160	1,061	79

※留守家庭児童育成クラブ専用棟がある学校は、延床面積と建築年度を記載しています。

### 3-2 児童生徒数等及び学級数の変化

#### (1) 小・中学校児童・生徒数

小学校の児童数は、昭和 55（1980）年度の 15,993 人をピークに、また中学校の生徒数は昭和 60（1985）年度の 8,024 人をピークに減少し、平成 26（2014）年度には小学校の児童数は 8,407 人、中学校の生徒数は 4,394 人と半減しています。

その後も減少傾向が続き、令和元（2019）年度には小学校の児童数は 7,920 人になり、平成 26（2014）年度から 5.8%減少し、中学校の生徒数は 3,858 人になり 12.2%減少しています。

今後 8 年間の予測でも緩やかな減少傾向となっており、令和 9（2027）年度には児童数は 7,419 人となり令和元（2019）年度から 6.3%の減少、生徒数は 3,566 人となり 7.6%減少する予測となっています。

#### ■小学校児童数将来予測

学校名	これまでの推移(人)						将来予測(人)								
	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	
久代小	456	460	469	484	518	508	526	525	539	536	516	532	519	525	
加茂小	460	459	456	465	480	485	500	498	508	507	494	504	497	499	
川西小	660	662	639	605	613	595	600	583	599	603	590	591	580	585	
桜が丘小	297	303	301	305	287	307	335	354	342	354	364	361	360	351	
川西北小	401	376	386	399	419	426	450	478	510	540	562	602	629	646	
明峰小	1,021	989	953	893	877	863	811	784	798	780	775	747	745	743	
多田小	559	544	546	530	499	501	476	485	479	481	471	458	459	436	
多田東小	674	694	683	678	681	667	653	635	632	602	593	578	577	565	
緑台小	334	344	317	309	301	304	288	273	288	299	321	343	361	372	
陽明小	303	306	312	295	304	307	291	291	303	333	343	359	382	387	
清和台小	341	339	323	309	299	294	287	262	252	261	245	230	223	226	
清和台南小	457	434	400	365	358	333	300	290	258	252	232	230	234	237	
けやき坂小	493	533	552	619	632	638	663	684	688	626	563	520	481	439	
東谷小	884	846	787	761	722	666	660	624	604	613	586	574	550	540	
牧の台小	495	490	506	513	532	514	544	527	525	531	538	578	588	611	
北陵小	572	547	527	539	534	512	500	469	436	387	348	302	269	257	
合計	8,407	8,326	8,157	8,069	8,056	7,920	7,884	7,762	7,761	7,705	7,541	7,509	7,454	7,419	

#### ■中学校生徒数将来予測

学校名	これまでの推移(人)						将来予測(人)								
	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	
川西南中	575	559	523	517	494	500	507	532	527	535	559	567	583	548	
川西中	595	598	601	604	577	555	515	522	534	542	541	548	565	590	
明峰中	442	470	474	517	472	459	432	443	412	396	382	395	369	360	
多田中	797	776	694	660	612	604	595	614	602	583	554	552	531	548	
緑台中	342	334	338	328	331	326	339	368	372	343	314	328	321	327	
清和台中	689	647	637	566	570	551	556	563	550	561	562	560	539	514	
東谷中	954	996	984	929	844	863	841	853	814	834	795	747	732	679	
合計	4,394	4,380	4,251	4,121	3,900	3,858	3,785	3,895	3,811	3,794	3,707	3,697	3,640	3,566	

**(2) 小・中学校学級数**

小学校の学級数は、児童数がピークを迎えた昭和 55（1980）年度の 407 学級から、また中学校の学級数は生徒数がピークを迎えた昭和 60（1985）年度の 199 学級から、平成 26（2014）年度には小学校は 320 学級、中学校は 136 学級に減少しています。

平成 26（2014）年度以降の学級数は、小学校では多少の増減が見られるものの令和元（2019）年度には 322 学級とほぼ横ばいに、中学校では減少傾向が続き令和元（2019）年度では 126 学級となっています。

今後 8 年間の予測でも、小学校の学級数は一時増加するものの減少傾向が続き、令和 9（2027）年度では 312 学級となり令和元（2019）年度から 3.1%減少、中学校の学級数は引き続き緩やかな減少傾向が続き、令和 9（2027）年度には 118 学級となり令和元（2019）年度から 6.3%減少する予測となっています。

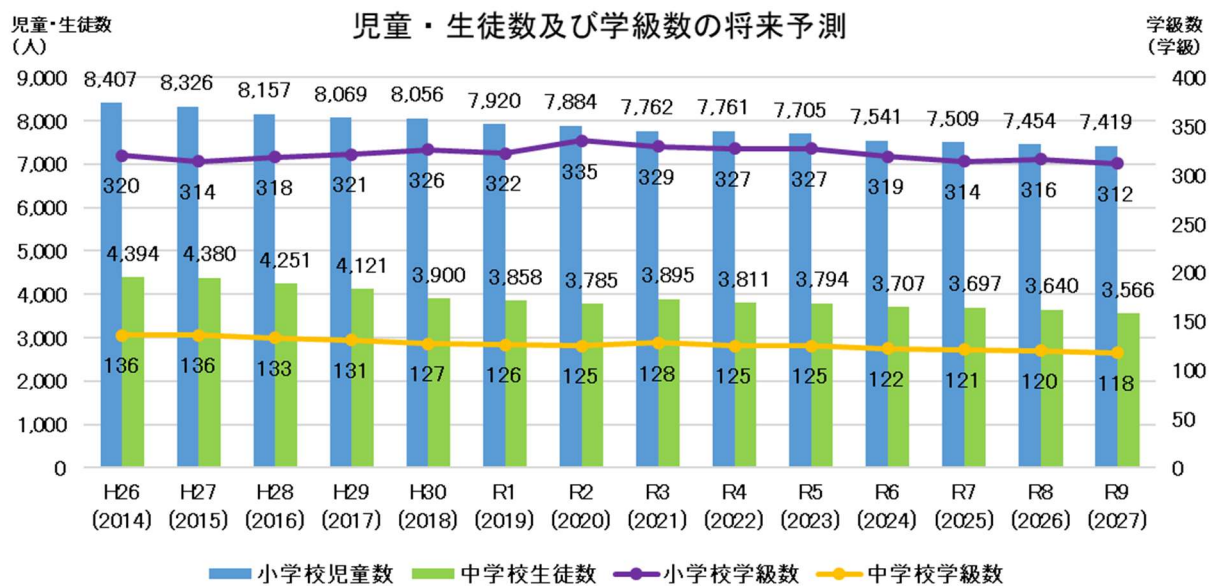
**■ 小学校学級数将来予測**

学校名	これまでの推移(学級)						将来予測(学級)								
	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	
久代小	18	18	19	19	20	20	24	24	25	25	25	25	26	26	
加茂小	19	17	19	18	20	21	25	26	26	25	25	25	24	24	
川西小	25	25	25	24	25	24	25	25	24	24	23	24	23	24	
桜が丘小	14	14	15	14	15	16	15	15	15	15	15	15	15	15	
川西北小	16	16	17	17	17	18	22	24	25	27	28	30	33	33	
明峰小	34	33	31	32	32	30	29	28	29	29	29	27	27	27	
多田小	20	20	20	21	20	20	19	19	18	19	19	18	17	15	
多田東小	22	22	23	25	25	24	25	24	24	24	24	24	24	22	
緑台小	14	15	14	14	14	15	13	13	13	13	13	13	13	13	
陽明小	13	13	14	13	14	13	15	15	15	15	15	15	16	15	
清和台小	15	15	15	14	15	15	14	11	11	12	10	10	8	8	
清和台南小	17	17	16	15	15	15	15	14	13	14	13	11	14	14	
けやき坂小	19	19	21	23	24	24	24	25	25	22	20	17	17	17	
東谷小	32	31	30	30	27	24	26	24	24	25	24	24	23	22	
牧の台小	21	19	19	20	21	20	22	22	22	22	22	23	23	24	
北陵小	21	20	20	22	22	23	22	20	18	16	14	13	13	13	
合計	320	314	318	321	326	322	335	329	327	327	319	314	316	312	

**■ 中学校学級数将来予測**

学校名	これまでの推移(学級)						将来予測(学級)								
	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	
川西南中	17	17	16	17	16	17	17	18	17	18	18	18	18	19	
川西中	19	19	20	20	20	19	20	19	19	20	20	20	20	20	
明峰中	15	15	15	16	16	16	13	13	12	12	12	13	12	11	
多田中	25	24	22	20	19	18	18	19	19	18	17	17	17	17	
緑台中	12	13	13	12	11	11	12	13	13	12	11	11	11	11	
清和台中	20	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	
東谷中	28	29	28	27	26	26	27	28	27	27	26	24	24	22	
合計	136	136	133	131	127	126	125	128	125	125	122	121	120	118	

※学級数は、特別支援学級を含む。



※将来予測は、以下の方法（コーホート変化率法等）により算出している。

- 平成27（2015）年4月1日から平成31（2019）年4月1日時点の5年分の住民基本台帳人口から、各年齢別に翌年の同集団（＋1歳）の人口との増減率を求め、その平均値を算出
- 上記の増減率の平均値を、基準とする平成31（2019）年4月1日時点の年齢別人口に乘じ、令和2（2020）年から令和10（2028）年の各年齢の推計児童・生徒を算出
- 上記の推計児童・生徒に在籍率（令和元（2019）年度の各学校の住年基本台帳人口に対する学校在籍人数の割合）を乘じ算出

### (3) 特別支援学校児童・生徒数及び学級数

特別支援学校（川西養護学校）の児童・生徒数及び学級数は、平成26（2014）年度以降多少の増減がみられるが、ほぼ同規模を維持しています。

#### ■児童・生徒数

(人)

学校名		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
川西養護学校	小学部	11	12	11	8	10	9
	中学部	6	7	7	9	7	9
	高等部	9	8	6	4	7	6
合計		26	27	24	21	24	24

#### ■学級数

(学級)

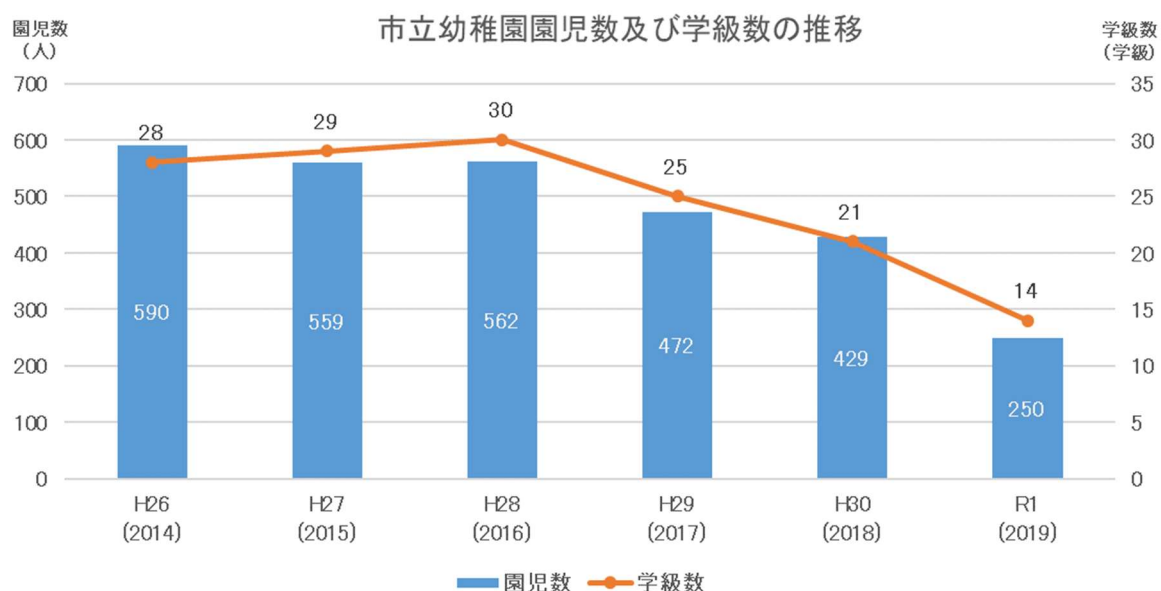
学校名		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
川西養護学校	小学部	4	4	4	3	4	3
	中学部	2	3	3	3	3	3
	高等部	4	3	3	2	3	3
合計		10	10	10	8	10	9



## (4) 幼稚園園児数及び学級数

市立幼稚園の園児数については、平成26(2014)年度の590人から減少傾向が続き、平成29(2017)年度に大きく減少した後、牧の台幼稚園と加茂幼稚園が認定こども園化に伴い閉園となったことから、令和元(2019)年度では250人となっており6年間で半減しています。

園名	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		R1(2019)	
	園児数 (人)	学級数 (学級)	園児数 (人)	学級数 (学級)	園児数 (人)	学級数 (学級)	園児数 (人)	学級数 (学級)	園児数 (人)	学級数 (学級)	園児数 (人)	学級数 (学級)
久代	75	4	78	4	89	4	66	3	61	3	62	3
加茂	125	6	129	6	146	6	135	6	144	6	—	—
川西	33	2	25	2	36	2	27	2	21	2	25	2
川西北	63	3	64	3	64	4	57	3	49	2	56	2
多田	52	2	54	2	49	3	46	2	48	2	33	2
松風	35	2	33	2	27	2	20	2	9	1	—	—
清和台	79	4	71	4	51	3	35	2	37	2	28	2
東谷	78	3	66	4	64	4	56	3	60	3	46	3
牧の台	50	2	39	2	36	2	30	2	—	—	—	—
合計	590	28	559	29	562	30	472	25	429	21	250	14



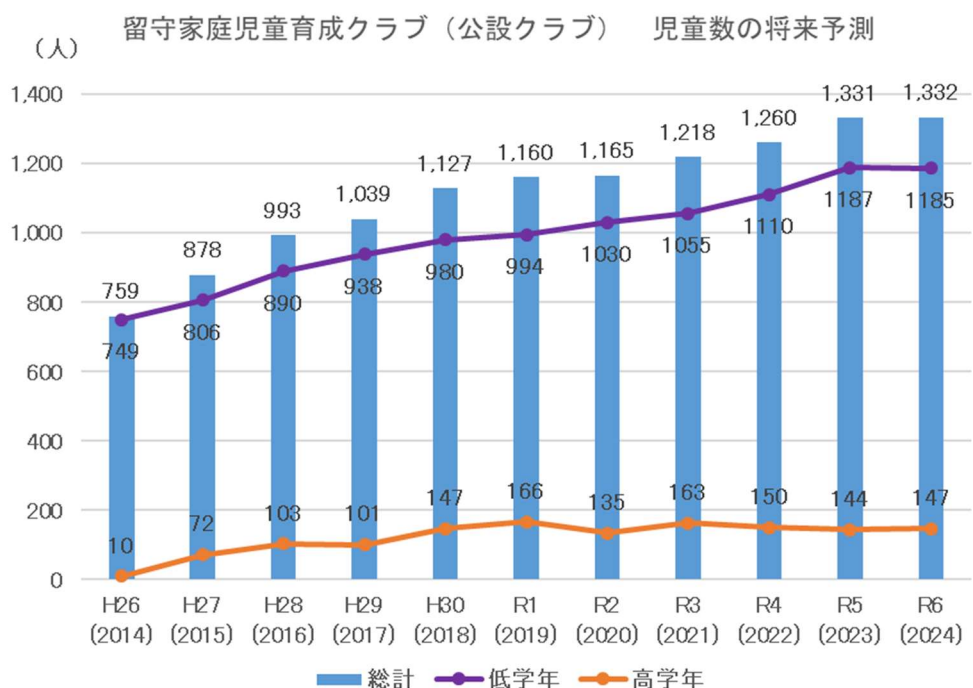
(5) 留守家庭児童育成クラブ児童数

公設の留守家庭児童育成クラブの児童数は、平成26(2014)年度759人であったのが、年々増加しており令和元(2019)年度には、1,160人となり401人増加しています。

今後5年間も女性の社会進出による保護者の就業等により、対象児童数は増加傾向となっており令和6(2024)年度には1,332人となり令和元(2019)年度から14.8%増加する予測となっています。

■留守家庭児童育成クラブ(公設クラブ) 児童数将来予測

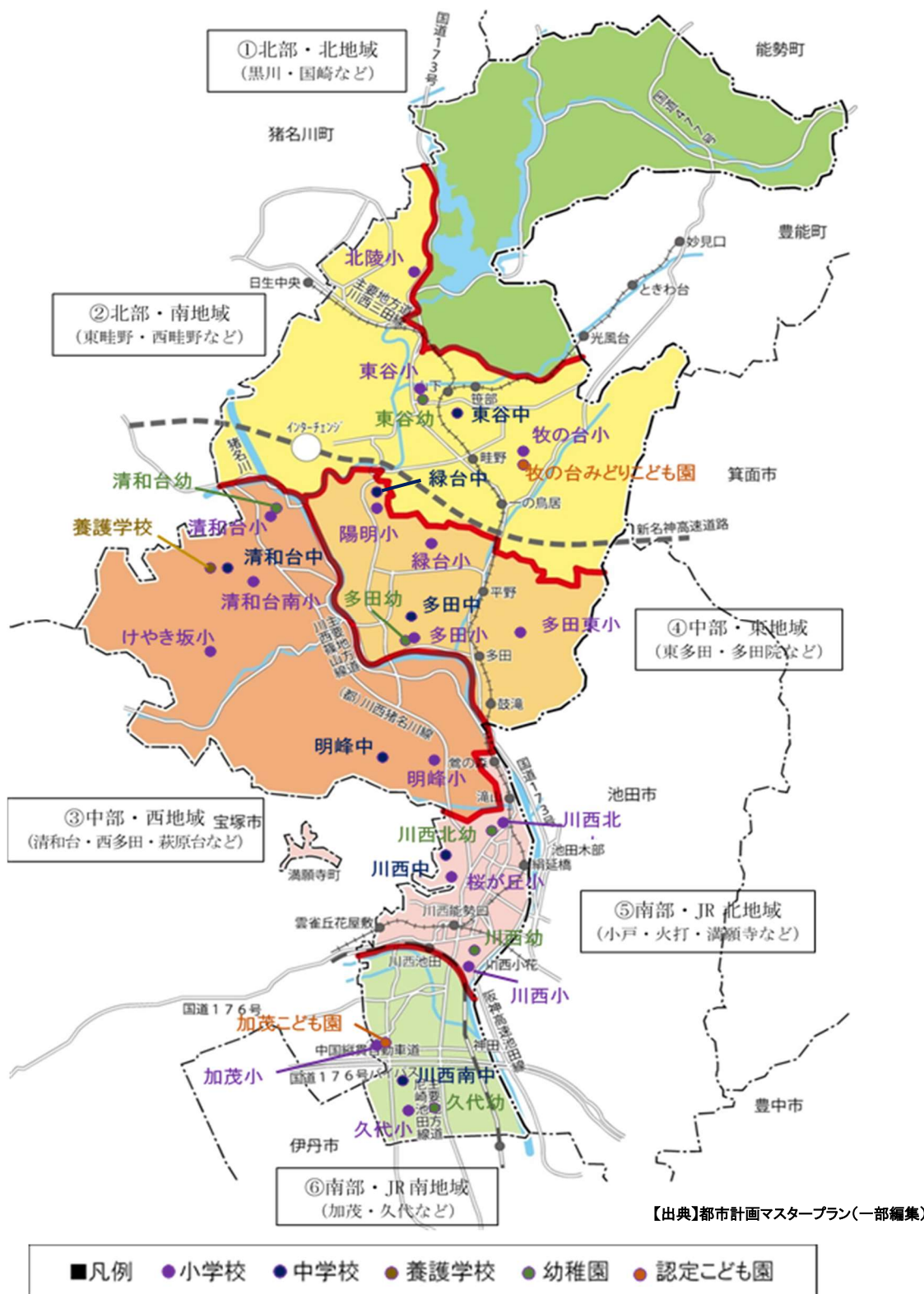
学校名	これまでの推移(人)										将来予測(人)											
	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		R1(2019)		R2(2020)		R3(2021)		R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)	
	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年
久代小	30	2	42	1	45	3	59	3	81	3	70	13	79	11	75	16	86	12	86	15	88	13
加茂小	38	0	41	4	36	11	40	8	40	8	55	5	59	1	66	6	63	11	67	12	65	11
川西小	74	0	79	11	81	15	91	5	110	22	115	27	115	26	106	25	117	20	117	21	125	19
桜が丘小	39	2	44	3	47	0	48	0	55	8	62	19	65	15	78	11	77	12	84	12	80	15
川西北小	45	1	55	2	59	7	63	11	72	9	70	15	79	9	90	14	104	13	119	15	120	19
明峰小	92	1	92	2	94	2	94	2	94	2	100	2	104	0	104	18	111	21	122	21	127	17
多田小	32	0	33	3	41	6	33	7	27	7	36	7	35	4	40	3	38	6	42	4	37	6
多田東小	50	0	62	9	70	12	80	2	68	11	66	16	66	15	73	9	75	7	73	9	75	7
緑台小	24	0	31	6	38	4	32	8	22	12	30	7	26	6	27	4	30	3	36	3	41	3
陽明小	27	0	29	2	31	5	33	7	28	9	31	5	30	3	29	6	32	4	41	3	45	3
清和台小	32	0	25	2	30	2	35	2	39	2	34	5	39	3	35	6	36	5	41	6	41	5
清和台南小	49	1	47	2	47	2	41	7	47	17	44	20	38	13	41	6	35	7	43	6	38	6
けやき坂小	57	0	53	9	71	10	78	6	82	2	84	1	84	0	84	0	84	0	84	0	71	13
東谷小	69	0	72	8	81	2	84	0	72	7	58	8	66	11	72	10	78	6	84	0	81	3
教の台小	50	2	53	4	68	13	83	13	92	15	80	13	85	14	80	20	96	12	107	7	114	0
北陵小	41	1	48	4	51	9	44	20	51	13	59	3	60	4	55	9	48	11	41	10	37	7
合計	749	10	806	72	890	103	938	101	980	147	994	166	1,030	135	1,055	163	1,110	150	1,187	144	1,185	147
総計	759		878		993		1,039		1,127		1,160		1,165		1,218		1,260		1,331		1,185	1,332



### 3-3 学校施設の配置状況

本計画の対象となる小学校 16 校、中学校 7 校、特別支援学校 1 校、幼稚園 6 園、認定こども園 2 園の市内の配置状況は以下のとおりです。

北部には、小学校 3 校、中学校 1 校、幼稚園 1 園、認定こども園 1 園が、中部には、小学校 8 校、中学校 4 校、特別支援学校が 1 校、幼稚園 2 園が、南部には、小学校 5 校、中学校 2 校、幼稚園 3 園、認定こども園 1 園が配置されています。



### 3-4 学校施設関連経費の推移

本市の学校施設関連経費の推移は、下表のとおりです。施設整備費では、平成 21（2009）年度より学校施設の耐震補強事業が本格化し、平成 25（2013）年度にピークを迎えています。

その後、平成 26・27（2014・2015）年度に川西市立小学校施設耐震化・大規模改造 PFI 事業を実施後一度経費は減少しましたが、平成 29（2017）年度に川西市立小中学校及び幼稚園等空調設備整備 PFI 事業により施設整備費が大きく増加しています。維持修繕費と光熱水費・委託費を含めた学校施設関連経費は、過去 10 年間の平均が約 20.1 億円となっています。

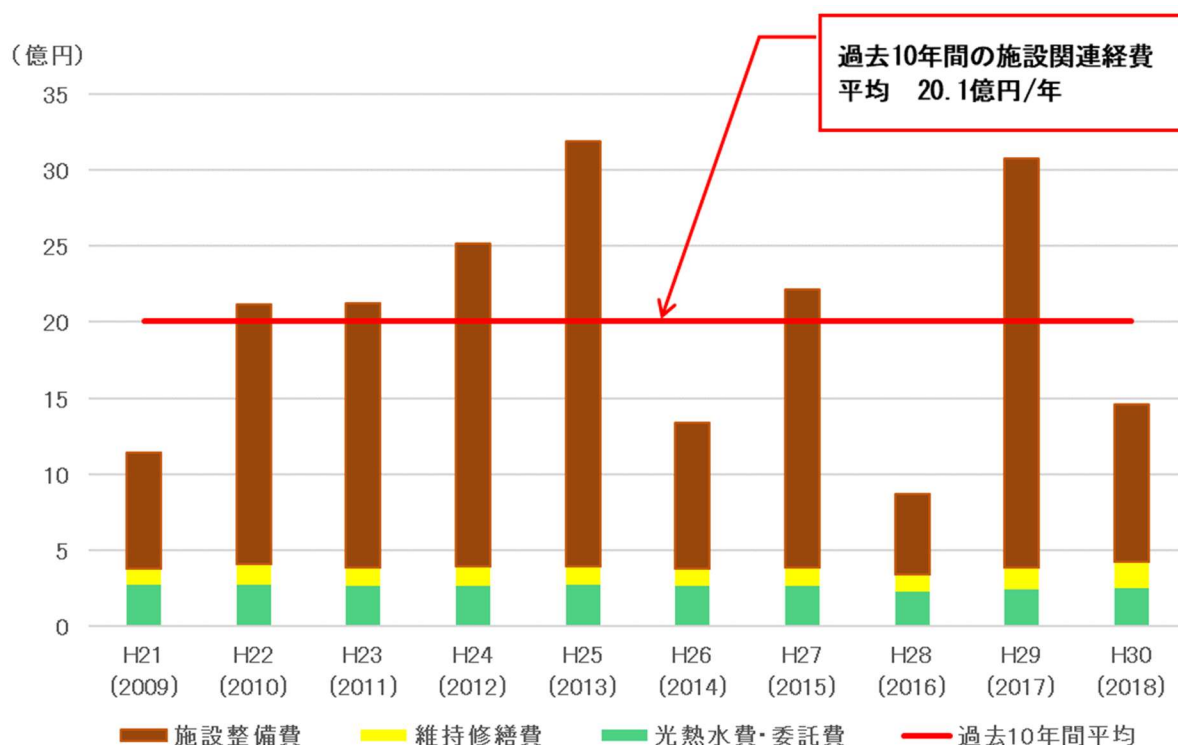
【図表 学校施設関連経費実績】

（単位：千円）

経費内訳	年度	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	過去10年 平均
施設整備費		768,735	1,704,366	1,734,717	2,127,093	2,792,993	962,164	1,828,721	526,753	2,688,893	1,034,603	1,616,904
維持修繕費		106,912	136,660	121,790	129,097	120,923	108,110	123,645	115,599	143,070	177,322	128,313
光熱水費・委託費		269,567	273,347	263,563	263,151	276,473	267,687	264,335	228,308	245,316	248,768	260,052
合計		1,145,214	2,114,373	2,120,070	2,519,341	3,190,389	1,337,961	2,216,701	870,660	3,077,279	1,460,693	2,005,268

※四捨五入の関係により、合計が一致しない場合がある。

【図表 学校施設関連経費実績グラフ】



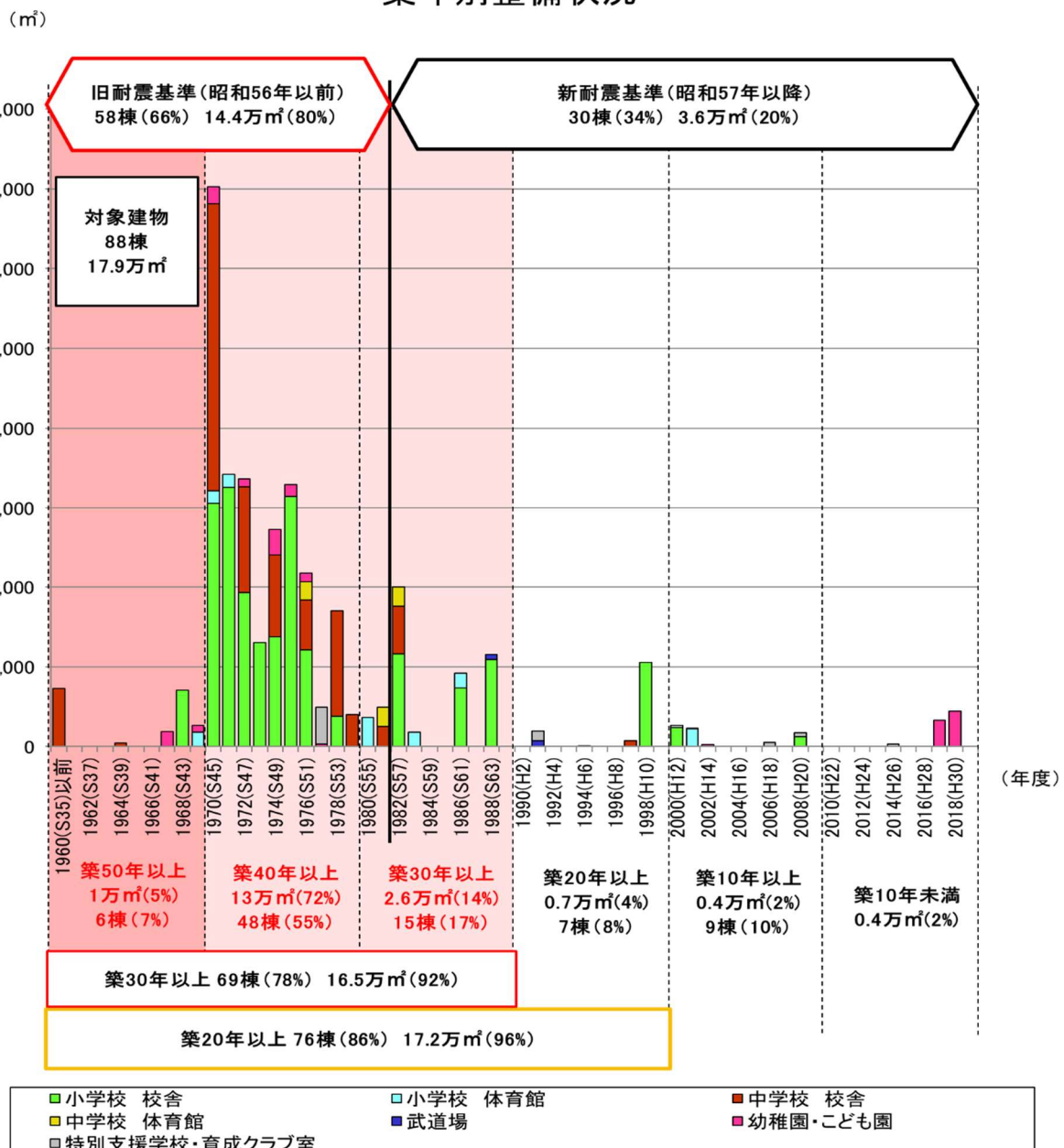
### 3-5 学校施設の保有量

本計画では対象の学校施設について、改築や改修を一体的に実施することが想定される「棟」をまとめて1つの建物として整理しています。

令和元（2019）年度時点で小学校17校（（旧）加茂小学校体育館を含む。）、中学校7校、養護学校1校、幼稚園9園、認定こども園2園、留守家庭児童育成クラブ室専用棟5室で、計88棟の施設を保有しており、総延床面積は17.9万㎡となっています。これは、本市の公共施設の総延床面積の半分近くを占めています。

学校施設は特に昭和40（1965）年代から50（1975）年代に集中的に整備され、築40年以上経過する施設が14.0万㎡で、学校施設の77%を占めており老朽化が進んでいる状況となっています。

築年別整備状況





### 3-6 今後の維持・更新コスト（従来方式）

学校施設関連経費について、築後30年程度で大規模改修を行い、築後60年で改築する従来の考え方で学校施設を維持管理し続けた場合に必要となる維持・更新コストの試算を行いました。

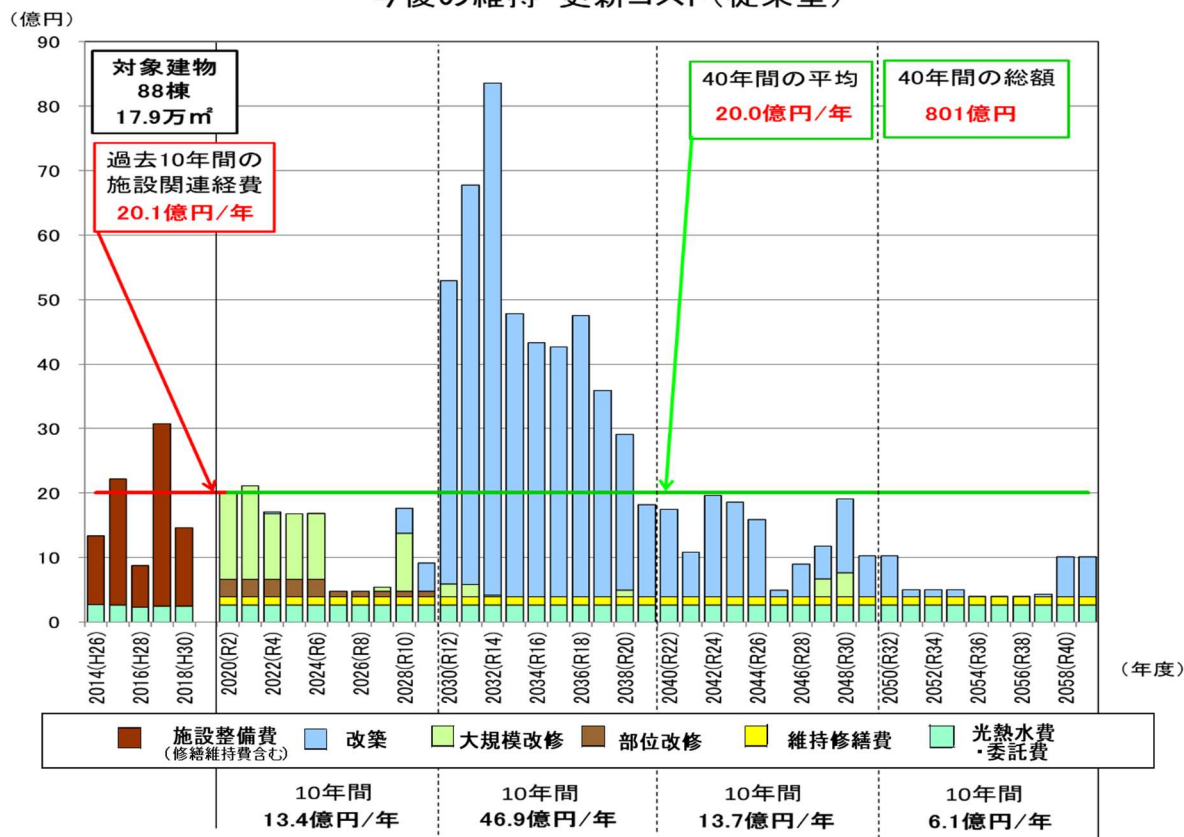
令和2（2020）年度から40年間で必要となる維持・更新コストの総額は801億円となり、年平均20.0億円となっています。これは直近10年間の学校施設関連経費の年平均20.1億円と同水準となっています。

ただし、令和12（2030）年度から令和21（2039）年度の10年間の学校施設関連経費は、改築が集中するため年平均46.9億円となり、直近10年間の学校施設関連経費の約2.3倍のコストがかかる見込みとなっています。近年の厳しい財政状況を踏まえると、従来の考え方にに基づく学校施設の維持管理が極めて困難であり、対応策の検討が必要です。

#### ■今後の維持・更新コスト（従来型）試算条件

項目	内容	周期	改修期間	単価
改築	施設の建替えに要する費用	60年	3年	330,000円/㎡
大規模改修	不具合発生後に行う経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事	30年	1年	170,000円/㎡
部位改修	劣化が著しい部位ごとに行う改修	今後10年以内	1年	部位ごとに改築単価に対する割合を設定
維持修繕費	維持修繕に要する費用	毎年		過去10年間実績平均額
光熱水費・委託費	光熱水費や維持管理に係る委託費用	毎年		過去10年間実績平均額
施設整備費 (修繕維持費含む)	直近5年間の施設整備費・維持修繕費の実績			

今後の維持・更新コスト(従来型)



### 3-7 学校施設の老朽化状況の実態

学校施設の老朽化状況を把握し、今後の改修方針等を検討するため「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（文部科学省）に基づき、構造躯体の健全性及び主要構造部の劣化状況の評価を行います。

#### (1) 構造躯体の健全性及び長寿命化の判定

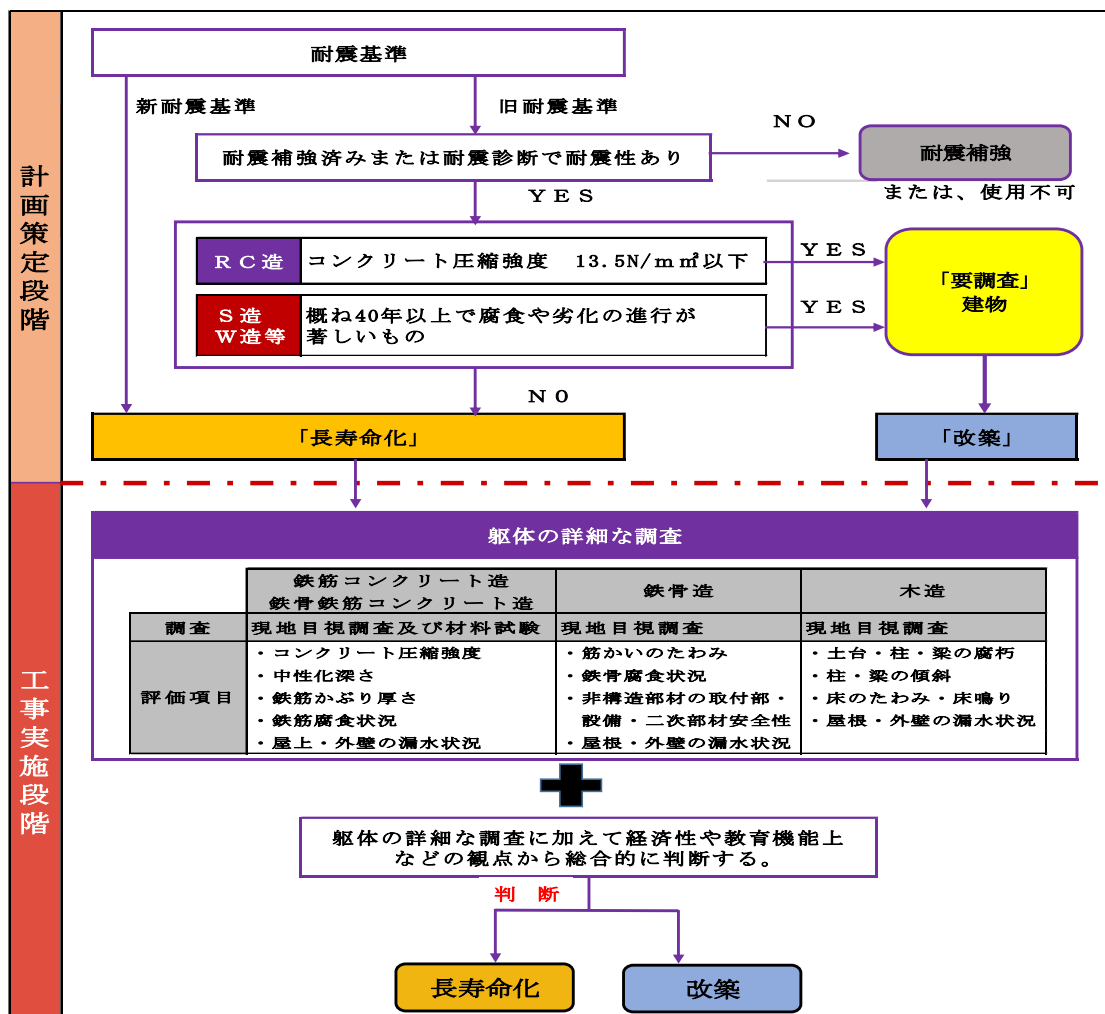
長期間にわたり建物を使用するには、構造躯体が健全でなければ必要な安全性は確保できません。耐震診断時の調査資料を基に、建物の築年数やコンクリート圧縮強度等を用いて、長期間の建物使用の可否について、構造躯体の健全性を評価します。

調査資料等から、下表「長寿命化判定フロー」に基づき判定した結果、計画対象建物 88 棟のうち 86 棟が長期間にわたって使用できるものとして「長寿命化」、他 2 棟については「要調査」となりました。

「要調査」と判定した建物は、日常使用や耐震性能に問題があるものではなく、今後必要に応じて調査を実施することとします。

なお、工事実施段階では、施設ごとの構造躯体の詳細な調査（コンクリート圧縮強度や中性化深さ等）を行い、最終的な改修方針等を判断する必要があります。

【図表 長寿命化判定フロー】



【出典】文部科学省 学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書

**(2) 主要構造部の劣化状況の把握**

建物の主要構造部の劣化状況を把握するため、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（文部科学省）を参考に、「躯体」、「屋根・屋上」、「外壁」、「内部仕上げ」については、専門知識を有する技術者による現地調査を実施し目視状況により、「電気設備」、「機械設備」については全面的な改修からの経過年数を基本に、下表「評価基準」に基づきA、B、C、Dの4段階で評価します（既に廃止している施設等については対象外）。

各部位の劣化状況の評価をした結果、「内部仕上げ」、「電気設備」、「機械設備」については、CとDの判定割合が高く「躯体」、「屋根・屋上」、「外壁」と比べて劣化が進行しています。

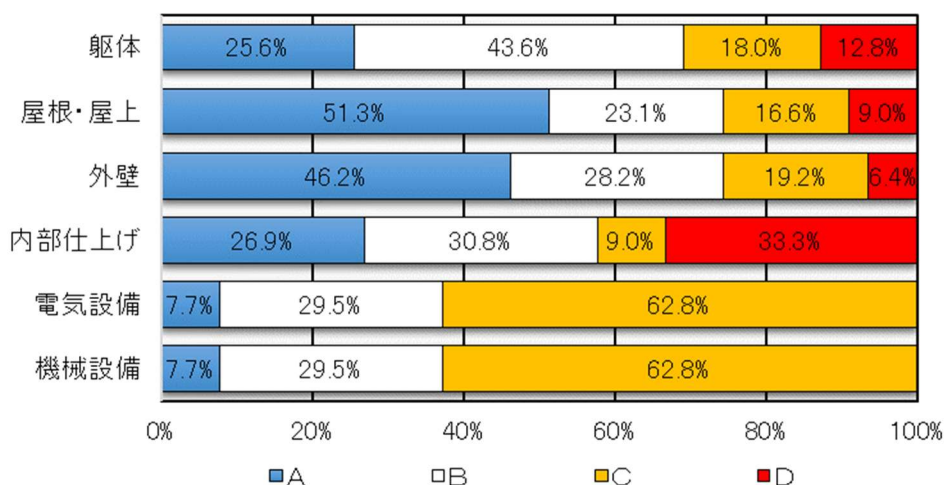
また、築年数が古い建物になるほどC・D判定が増加する傾向があり、築40年未満の建物でも大規模改修を実施していないものについては、C・D判定となっている部位が見られます。

【図表 評価基準】

【躯体、屋根・屋上、外壁、内部仕上げ】 ○目視状況による評価		【電気設備、機械設備】 ○経過年数による評価	
評価	基準	評価	基準
良好 A	概ね良好	良好 A	20年未満
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)	B	20年以上～40年未満
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)	C	40年以上～60年未満
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)など	D	60年以上

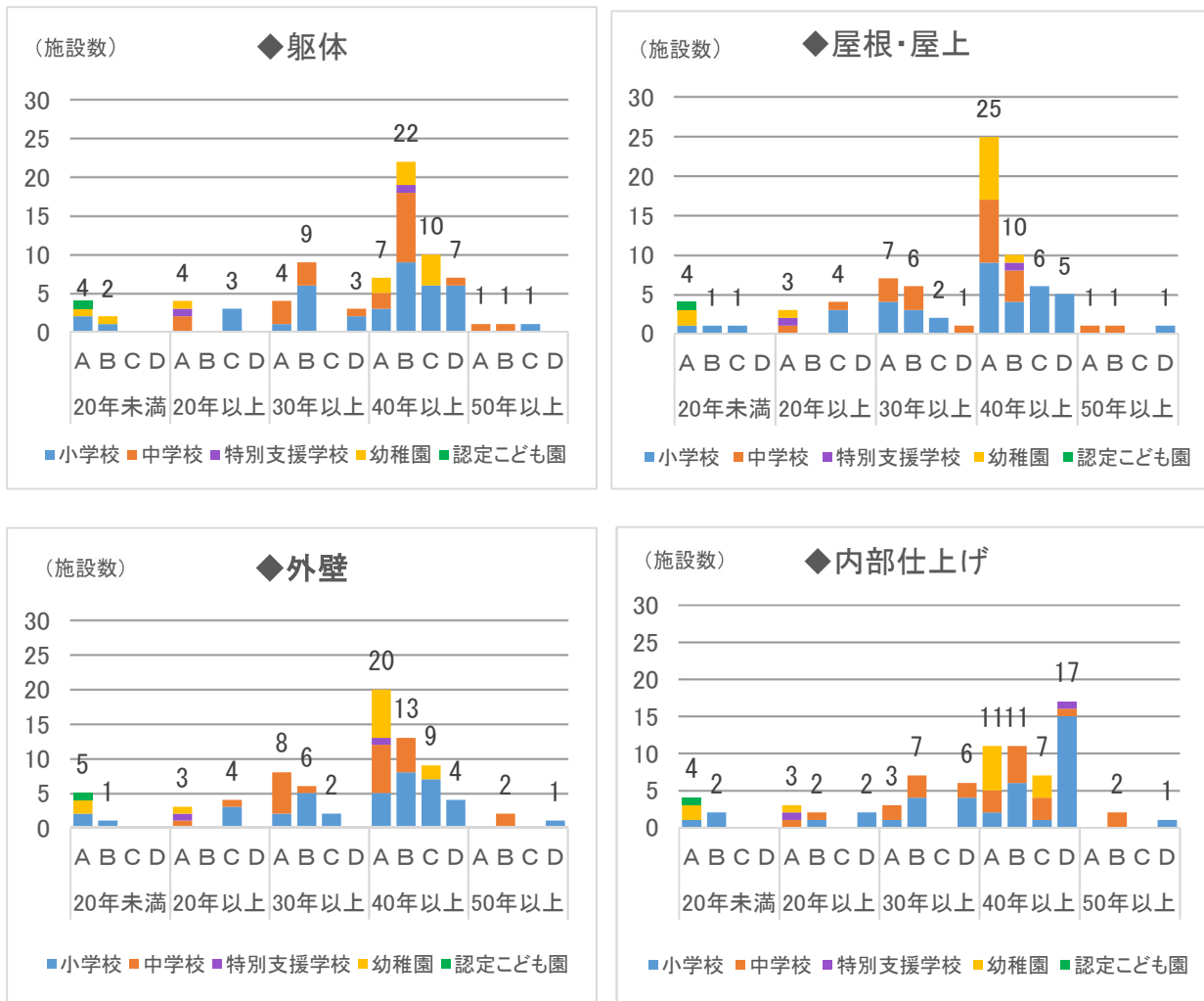
【図表 評価結果】

劣化状況の評価結果





【図表 部位別評価結果】



### (3) 健全度の算定

主要構造部の劣化状況の評価結果に基づき、100点満点に換算したものを「健全度」と定義します。この健全度を用いて今後の改修等の優先順位づけを行い、改修計画等に活用します。部位ごとの評価点と重要度係数、健全度の算定方法を下表のとおり定め、健全度を100点満点で算定します。

健全度算定の結果、大規模改修工事により70点以上の建物が64.1%となっていますが、50点未満の建物も16.7%あり、健全度の低い建物から優先的に改修等を行う必要があります。

【図表 評価点及び重要度係数】

評価点	重要度	部位の重要度の判断基準	重要度係数
A	大	計画保全すべき部位 (①躯体/②屋根・屋上/③外壁)	1.00
B	中	計画保全が望ましい部位 (⑤受変電設備/⑦空調設備)	0.50
C	小	事後保全で構わない部位 (④内部仕上げ/⑥⑧その他電気・機械設備)	0.25
D			

【図表 健全度算定配点表】

評価対象の部位		満点(当初)	重要度係数	満点(係数反映後)
建築	① 躯体	100 点	1.00	100 点
	② 屋根・屋上	100 点	1.00	100 点
	③ 外壁	100 点	1.00	100 点
	④ 内部仕上げ	100 点	0.25	25 点
設備	⑤ 受変電	100 点	0.50	50 点
	⑥ その他電気	100 点	0.25	25 点
	⑦ 空調	100 点	0.50	50 点
	⑧ その他機械	100 点	0.25	25 点
計				<b>475 点</b>

◎ 健全度 =  $\frac{\text{総得点 (各部位の評価点} \times \text{各部位の重要度係数)}}{475} \times 100$

- 健全度は、数値が多いほど健全で、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示します。
- 475 点を 100 点満点に換算するため、満点（475 点）に対する得点の割合を算出した後、100 点を乗じています。
- 分母の 475 点はいくまで最大値です。劣化状況調査や 12 条点検（①+②+③=300 点）を実施していない施設や受変電設備（⑤=50 点）や空調設備（⑦=50 点）がない施設については、分母の 475 点からそれぞれ減点します。

【図表 健全度算定結果】

